

はじめに

愛媛県と観光について近年は新型コロナウイルスにより訪日外国人の減少が見られた。いわゆる観光都市では外国人観光客が多い印象を持つが実際はコロナ禍以前に比べると2022年の訪日外国人旅行者数は383万人と2019年比で88%減少という数字がでている。外国人だけではなく国内旅行者にも影響が見られることから観光による経済効果について私は考えていきたい。新型コロナウイルスにより経済が停滞したためGO TOキャンペーンや補助金の配布が行われた。どうにかして経済を回そうという政府の取り組み、そこからこそ日本、各県による観光資源の活用で盛り上げていく必要がある。また、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて物価の高騰で私たちの生活に打撃を与えている。それにより消費を節約する動きが見られ、これからの日本はどのような道を歩んでいくのかについても興味を持った。その中で自分の生まれ育った愛媛県が今ある資源を最大限活用することでどのような経済効果を生み、持続可能な観光地として国内、延いては海外の人々を引き寄せることができるかについて問題意識を持って探っていきたいところである。

観光地に実際に足を運ぶことが難しい人も一定数いるだろう。そんな人にはふるさと納税制度の活用でまず興味を持ってもらうという方法がある。ふるさと納税制度は2008年から始まった制度であり、自分の故郷や応援したい自治体を選んで寄付できる制度である。その寄付金やまちづくりや復興支援事業に使われ、地域の魅力度Upに繋がると思う。その他新たな事業に充てることで観光客の創出にも繋げることができると考えられる。

持続可能性で言うと全国の空き家や古民家を再生させ利活用していき、その土地ならではの建造物を残す取り組みで伝統を守っていくなど、観光にも様々な形があると感じている。私たちが旅行する際に目的地に行くために経由する県があるだろう。そこでは少しのお金を使うだけということが多いように思う。だからこそそういった状況から1泊してもらうような街を実現するにはどうするべきかについても考えたい。観光資源の上手い使い方について探り、関係人口や交流人口の拡大からの定住へと繋げる動きで地域活性化に向けて考えていく。大きな括りでいうと「観光」だがセクターごとに考えることでより深い研究に繋がっていききたい。

第1章 先行研究

第1節「愛媛の魅力を活かした観光まちづくり」

私が思うに、愛媛の魅力は道後温泉、伊予の小京都とも呼ばれる町並みが残っている市や伝統工芸品などの資源だ。溝尾(2017)によると「愛媛県内で取り組んだ全国的に注目すべきプロジェクトについて探っていた。道後温泉の問題点の1つにシンボルを旅行者が撮る際に車の往来が激しく写真が撮りにくいことが挙げられた。景観整備に乗り出しガイドラ

インを作成するなど先進観光地の取組みを行ったとのことだ。行政に依存するのではなく、住んでいる人も重要だということも書かれた。言われたことだけやっても効果が薄く、積極的な資源の活用や住民の行動こそが魅力あるまちづくりに導くのだ。またその県だけで完結する観光もあるが隣の県などで人気となるものを含む周遊型観光が魅力を上げることに繋がるようだ。他には自然を活用した観光効果もあるが立地や環境に関わり、出向かなくてもよいという状況が作られてしまうと発展するのに厳しい」ことを頭の隅においておきたい。

第2節

「ガイドによる観光価値の創造過程」

吉岡他（2015）によると「歴史を辿る中で平安末期に巡礼という形態が今でいう観光に似たものであったとのことだ。本格的な旅行業は、明治になってからでガイドは観光ボランティアガイド、まちあるきガイドに分けられる。観光スポットを中心にまちの魅力を伝える観光ボランティアガイド、道のりを中心にまちの生活と触れあうまちあるきガイドに分類できるようだ。しかしながらそれぞれ何を重視しているかアンケートを採ったところまちあるきガイドの方も観光スポットを重視するという回答が多くあまり差異がなく、両者の分化や認識が課題であるようだ」と述べられている。「ガイドが熱くなって一人歩きしないよう参加者と一緒に観光価値を創造していく必要がある。そこに住んでいる人からすれば日常の風景を、観光客の人からすると非日常を深く知ることが新たな地域資源の価値を生み出すことに繋がる。ガイドは仲介役を担っている。ガイド自身がまちについて関心を持ち、調べることが重要」でガイドの力量によって参加者がまたこの街をリピートしたいと思えるかにも繋がるのではないかな。

第3節

「人材育成、人への投資の重要性」

和田（2022）によると「ウィズコロナの観光サービス向上に向けて愛媛大学の法文学科と社会連携推進機構は地域コンソーシアム産官学連携観光産業振興協議会との連携について述べられていた。SDGs や地域の持続的な振興が求められるなか行われた観光に携わる人、職場、地域などのネットワークを構築する試みだ。受講生としては観光サービスを担う経営者や現場実践者、観光ボランティア、未就労の初心者や経験者等さまざまだ。このように同じ目標を持つ者同士が年代などは違えども一緒に学び直す環境が地域の観光の未来を作っていくのだ」としている。和田（2017）によると「ホスピタリティすなわち「おもてなし」が重要で、人の温かさなどによる地域経済の活性化に効果が期待できそうだ。2013 年以降松山や愛媛、瀬戸内地域に観光客が増えている要因としてテレビやお遍路ということがわかった。観光サービス産業の集積もあり発展して行くにはより良質なサービスの提供が求められている。国内外と多くの観光客に対応していくにはホスピタリティの向上が必要だ

ということが一つの選択肢である。だからこそ人材育成に力を入れるため産学官連携による事業を試行したのだ。まずは観光客の動向を分析し、課題を探った。中でも懸念されたのが観光サービス産業は人不足による「人欠倒産」を生みかねない状態だった。プログラムを設定し観光サービスを志向する者に合わせて選べるようだ。日本にある「おもてなし文化」で多くの人に喜びを与え、気持ちや時間を共有していき人材育成には時間やお金など投資をしていく必要があると感じた。

第4節

「空き家活用 分散型ホテル事業」

関谷・岡村（2021）によると、「地方創生に向けて注目が集まっている。フロントと宿泊棟を分散させることで来訪客が地域内を回遊し地域について知ってもらうきっかけにもなる分散型ホテル事業。空き家を使ったカフェも増えており立地次第で多くの可能性を秘めているのだ。近年の外国人観光客の増加に伴うゲストハウスや分散型ホテルが地域経済にもたらす効果は大きいよう。1976年に北イタリアでの震災をきっかけに取り組みされた民泊システムのアルベルゴ・ディフーズが発祥だ」。私の地元の大洲市にも古民家を改修したニッポニアホテルがありレストランと宿泊場所が異なっているのを目にした。日本独自の取り組みとあっていただけに驚いた。また、「空き家の活用において資金や人材不足、人と人を結ぶ空き家バンクの質や物件の確保など様々な問題がある」と指摘している。

歴史ある町並みの保全や再生といった所にも配慮する必要があった。課題として所有者不明土地が挙げられる。高瀬（2024）によると、「2021年に相続土地国庫帰属法や改正民法で発生予防や土地を手放しやすくし国に引き取って貰える制度ができ、土地の利活用を円滑に進めていける可能性が見られる」。これにより質の確保や物件の確保の問題を緩和しマッチングしやすくなればよいと考える。これが持続可能性を秘めた地域活性化なのだろうか。

第5節

「観光列車 伊予灘ものがたりについて」

藤田（2019）によると「食べる」・「買う」・「見る」のそろった観光列車である。2014年7月26日から運用され始めた観光列車で土日祝を中心に運行されている。他の予讃線と同様に自然風景を楽しむことができるが、沿線住民有志の歓迎や大洲城の旗振りがあるそう。それだけでなく利用者と沿線住民とのコミュニケーションで観光価値の生成が見込まれるとのことだ。食器なども愛媛で有名な伝統工芸品の砥部焼が使われており、そこから地域の文化を体感することができる。乗客数が1年でコンスタントに2万人ずつ増加していることから誘因力のある観光資源の1つであることが理解できる。大きな経済波及効果を生む「伊予灘物語」だがむやみに増便したところで利潤は得られない。観光列車が持続的な誘客を達成する際有効なツールでも当該地域への大きな経済波及効果を期待するには列車の魅

力と経済効果の漏出を防ぐことが必要なようだ」。経済効果の漏出は避けられないことであるとも感じた。しかしそれをいかに抑えることができるかで今後の観光列車に求められることだといえる。

第2章 愛媛県の特徴とは

第1節 地域資源や訪日観光客の動向

まずどのような地域資源があるのかについて知ることから始める。愛媛県の概要として南予、中予、東予の3つに分けることができる。それぞれの特色としてまず南予は自然やゆったりとした雰囲気、古い町並みなどが挙げられる。中予は愛媛県庁公式HP 中予地方局によると「愛媛県の中央部に位置する地域であり松山市を中心とした都市部で県内随一の商業機能、医療、教育、文化施設が集結している。道後温泉や松山城などの歴史や文学にまつわる観光地が多数あることや、石鎚山、四国カルストなどの美しい景色が魅力である」。東予は瀬戸内海に面しており、海運・造船業が発達している。今治タオルは日本のみならず世界でも有名である。

第2節 インバウンドの動き

コロナをきっかけにインバウンドが縮小傾向にあった。インバウンドの取り込みが経済回復の兆しとなると見込んだ。全国の延べ宿泊者数（全体）は5億9,275万人泊、2019年比-0.50%（前年比+31.6%）であった。日本人延べ宿泊者数4億7,842万人泊、2019年比-0.4%（前年比+10.2%）であった。外国人延べ宿泊者数は1億1,434万人泊、2019年比-1.1%（前年比+592.8%）であった。外国人延べ宿泊者数は20万950人、2019年比-7.1%で前年比501.3%だった。

愛媛県内でいうと中心部の松山での観光が多いことがわかった。車を運転しないこともあって交通の便がいい所で回遊の動きが高まっているのだ。交通アクセスは中心部の松山が優れている。その他の地域においても観光地や食、産業など十分に良い資源があるものの、アクセスや開発が進んでないという理由から訪れないということも考えられるのではないかな。だからこそ、地域にも目を向けることで国内、海外からの観光客を増やし新たな観光地創造に努めることも1つの活性化に向けての取組みだと考える。

（図表1）宿泊旅行統計調査（2023年・年間値（速報値））
（万人泊）

	全体	日本人	外国人
2023年1月～12月	59,275	47,842	11,434
（2019年比）	-0.50%	-0.40%	-1.10%
（前年比）	31.60%	10.20%	592.80%

（出典）

観光庁 宿泊統計調査より <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001725314.pdf>

(図表 2)



出典 Wikipedia

第 3 節 松山のシンボル

道後温泉（図表 2）は古事記や万葉集にも登場した日本最古の温泉である。城郭式・木造三層楼の本館は建物全体が国の重要文化財でも有り「坊っちゃん」を始め、小説や映画などの名作に松山の顔として登場したとされる。3000 年の歴史を誇る天下の古湯であり平成 31 年 1 月から営業しながら保存修理工事に着手したのである。工事事業者、関係者など多くの方の力により令和 6 年 7 月 11 日に約 5 年半ぶりに休憩室含め全館での営業を再開することに成功している。こういった全館営業再開の動きによりさらなる観光客、県民をも呼び込むことで経済波及効果を生むと期待される。（出典）愛媛県の公式観光サイト【いよ観ネット】



(出典) Wikipedia

第 3 章 大洲市の新たな魅力創出

第 1 節 キャッスルステイ

キャッスルステイとは、天守で一夜を過ごすだけでなく元和 3 年（1617）の入城シーンの再現や伝統芸能の鑑賞、そして大洲藩に献上したとされる地域の食材を用い、現代風にアレンジした贅沢な料理を楽しんでもらうものである。2 名 1 泊 1,100,000 円（税込）1 名追加毎に+100,000 円となっている。文化財が本来持っている価値を最大限に活用することでさらなる認知拡大を図る。この値段設定には文化財保存・整備環境を持続可能なものにするためだ。また文化や歴史に感度の高い国内・国外の人をターゲットに展開している。大洲市の大洲城キャッスルステイの誕生についてだが 2018 年に設立された一般社団法人キタ・マネ

ジメントが持続的な地域発展のシステムづくりに奔走していた。代表は高岡公三さんだ。大洲の歴史や文化、自然を活かすことでその資源を未来につなぐことを目的として設立された。大洲城の認知度や城下町の町並み保全、滞在時間、宿泊施設の少なさもあった。また若者の働く場所も少ないなど多くの問題が存在していたそう。だからこそ経済的価値を与えたのだ。保全、活用を促進し地域の魅力を創造していたことが伺える。年間 30 日程度に限定、夜間のみ宿泊可、「見る」から「実際に体験する」ところにも着目したプロジェクトだ。2024 年 9 月 1 日で木造による四層四階の天守復元から 20 周年を迎える。市民の熱い思いで天守復元が達成され次世代につないでいく動きで記念事業を実施されている。2024 年 7 月 13 日～9 月 23 日の間である。大洲市のシンボルとして未来へ継承していく必要もあり持続可能なまち作りに大きく貢献しているといえる。コロナ緩和によってインバウンドが回復し「見る観光」から体験できる観光が外国人観光客を呼び込むことに繋がるように感じる。外国人は寺や神社、お城刀など日本らしいものに興味を引かれている。だからこそ日常では体験することができないであろう、キャッスルスティは愛媛県の魅力を引き立てる新たな武器とも言える。

第 2 節 宇和島市の魅力

闘牛が盛んに行われていることが上げられる。全国闘牛大会や年 5 回の定期大会が行われている宇和島市の闘牛は日本で昔から愛されているとのことだ。また鯛めしが愛媛の郷土料理であり鯛の切り身を甘辛いタレや卵黄と絡め食べる「宇和島鯛めし」は鯛とご飯と一緒に炊き上げる中予地域の鯛飯と違った味わいとなっている。愛媛県はマダイの養殖が全国 1 位であり全国シェアが 55% と大きな生産量を誇る。

第 3 章 古民家など使ったニッポニア事業について

NIPPONIA は歴史的建造物を活用し持続可能なまち作りに貢献している。美しい景色や町並みに加えて地域再生に貢献していると言える。その土地の文化などを活かしての未来へ向けた新しい事業ということだ。地域の食材を使った取組みも有名だ。エリアごとに特色も違うだろうから旅行、観光で訪れた際には宿泊してみるのも 1 つの手だと考える。先行研究でも述べたが分散型ホテル事業ということもあり地域を回遊できることからより地域の魅力について気付くことができるだろう。人から聞く、インターネットの情報よりも自分で新しい発見ができるかもしれない。

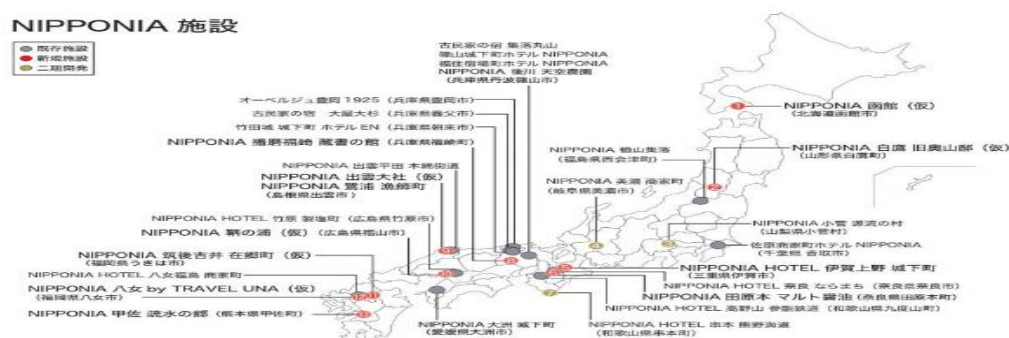
NIPPONIA の沿革として 2009 年一般社団法人ノオトを設立し同年 NIPPONIA 事業の原点「集落丸山」(兵庫県丹波篠山市) をオープンした。2016 年 5 月には株式会社 NOTE を設立した。一般社団法人ノオトは歴史的建築物の保存・活用についてその理念や手法について調査研究を行っているとのことだ。株式会社 NOTE は物件の発掘と改修から事業者マッチングまで、エリア開発事業を一貫して展開している。トータルなエリアマネジメント実現に向けて全国に仲間がいるようだ。その他パートナーとして J R 西日本や神戸新聞、J R 西日本イノベ

ーションズ、一休.com などがある。

NIPPONIA の役割としては地域計画、事業計画、開発マネジメント、資金調達支援、事業者誘致、建設計画・設計、マーケティング・PR、運営支援といったものだ。民間企業などとの連携と地域の特色を活かした動きで持続可能なまち作りを支援していることが伺える。また、図表 4 に掲載した NIPPONIA 事業発の新築施設「NIPPONIA 後川（しつかわ） 天空農園」は NIPPONIA 事業の中で初めて新築をとという古民家活用ではない取り組みも行われていた。兵庫県丹波篠山市、棚田を見下ろすように建っているようだ。図表 5 に掲載した「NIPPONIAHOTEL 箱館 港町」は重要伝統的建造物群保存地区の赤レンガ群に位置する。北欧の雰囲気や赤レンガは普段味わうことができない空間となっているようだ。

町並みの保全活用では「住みながら残す」方法が一般的と考えられるとあった。しかし大洲城下町は空き家でかつ所有者が市街県外に移住される例が多く「住みながら残す」方法が一般的でなく賃貸または購入して残す方法が合理的とされる。大洲城下の町並みは町家（店舗住宅）が多く商工業系の事業と相性が良いとされる。観光まちづくりにおいて「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを目指す政府の方針に大洲市も賛同し「ウォーカブル推進都市」に参画している。関係人口、交流人口など人の活発な動きで都市を構築していこうという動きで歴史的な街、価値を活かすのに最適ではないか。また、1 つの市だけではなく、近くの市（内子町など）と連携した官民連携により観光産業の促進に拍車をかけることができると考えられる。NIPPONIA HOTEL 大洲城下町は日本最大の分散型 HOTEL であり、キャスルステイができることも魅力の一つであると考えられる。（図表 3）NIPPONIA は全国 31 地域には 167 棟 227 室で展開されている。2019 年に全国 10 地域に拡大、2022 年には全国 30 地域に拡大とどんどんとその数、ネットワークを構築していつている。今後の動きにも目が離せない。

（図表 3）



（出典）NIPPONIA

(図表 4)



(図表 5)



(出典)NIPPONIA HOTEL

(図表 6) 初代たま駅長



(出典)Wikipedia

第 4 章 観光列車事業について

第 1 節 鉄道事業における事例

まず、観光列車の定義は、旅行をするための移動手段として鉄道を利用するのではなく、鉄道に乗ること自体が旅行の目的となるような、通常の列車とは異なる魅力的な外観や内装をもつ列車のことである。国土交通省による鉄道の特徴では安全性や事故の心配、緊張がなくリラックスして食事や風景、交流ができることが挙げられる。観光利用目的であるならば乗り換えの時間を短縮できサービスの向上といった地域と連携しながら観光コースを模索し地域振興やPRを進めていく必要がある。観光列車事業に関連して和歌山電鐵貴志川線の貴志駅の名誉永久駅長「たま」(図表 6)についてみていく。招き猫的位置づけのアイドルの三毛猫で、やがて「駅長」という肩書きを背負うことになった。2007 年 1 月 5 日に和歌山電鐵から正式に駅長に任命され話題を呼んだ。日本に平成の猫ブーム「ネコノミクス」をもたらしたとされ任期は終身雇用で報酬は年俸でキャットフード 1 年分であったそうだ。このようなマスコットキャラクター、シンボルがいることで経済効果をもたらすことが十分に考えられる。「たま」の人気や猫ブームがもたらす経済効果によると平成 27 年は飼育費

やグッズ売り上げ、観光費用含め約 2 兆 3 千億円にあがったことがわかった。動物ブームと観光列車、駅の組み合わせは相当の相乗効果を秘めていることが感じとれる。

大阪府立大・関西大両名誉教授の宮本勝浩によると「試算では 2007 年 1 月からの 1 年間を対象にし、乗降客が前年度比 5 万 5000 人増え、運賃収入も約 1500 万円増えていたことがわかったのだ。たま駅長関連の商品による経済波及効果もあって 10 億 9400 万円」となっていたことがわかった。その県に来ないと見られないなどの希少性を備えることも県として、市として地域活性化の足がかりになると感じた。

第 2 節 愛媛県における観光列車

四国発の本格的な観光列車である伊予灘物語は 2014 年 7 月 26 日より運行が開始されている。経済効果について中谷・小長谷（2014）は「年間約 8400 万円の経済波及効果があることを示している。運行頻度が少ないからという理由が上げられる。そして他地域への経済波及効果も大きく、観光列車はその土地だけで完結することはないのだ」ということが挙げられた。

2021 年 12 月末に一つの節目を迎え、2022 年 4 月からキハ 185 系 3 両編成を改造した車両が運行を開始したとのことだ。運転ダイヤは大洲編、双海編、八幡浜編、道後編の 4 つとなっている。4 つの旅どれも下灘駅に 10 分ほど停車する。数々の映画やドラマのロケに使われるなど海の見える駅として有名である。大洲編から八幡浜編は松山発で、道後編は八幡浜発となっている。道後編においては夕日と伊予灘の景色を眺めることができ、より特別感が味わえる。終点松山では道後温泉で疲れを癒やすことも一つで旅の締めくくりにもってこいである。1 号車から 3 号車の編成で 1 号車から茜（あかね）の章、黄金（こがね）の章、陽華（はるか）の章となっている。様々なシートタイプがあり 1 号車には 4 名まで座れるボックス席や運転席側が大型のガラス扉となっており景色が見やすくなっている。また 2 号車では海向きシートの 1 部が 2 名様での利用が可能など楽しみ方は様々である。3 号車は 2 名～8 名の利用で特別感満載となっている。料金体系は以下の図表 7、8 となっている。車内では地元食材を使用した食事が楽しめる。これに関しては食事予約券を申し込む必要がある。4 つの旅それぞれで異なるため全部制覇してみるのも面白いかもしれない。「伊予灘ものがたり」の双海編、道後編が停車する伊予上灘駅では犬 1 匹、猫 2 匹のもてなしがあるようだ。2019 年には犬駅長、猫福駅長の任命式が実施されたとのことだ（図 9）。チワワのマロン、トラ猫のトラ、サビ猫のカンナの 3 匹に会えるのは伊予灘ものがたりが伊予上灘駅に停車しているわずかな時間だけだそうで良い思い出になるだろう。自分で自由に観光することも一つの手だが、景色も見ながら食も味わい、愛媛県について知ることができるので試してもらいたいものの一つだ。

(図表 7) 1 号車、2 号車の料金表

区間	運賃	特急料金	グリーン料金	運賃料金合計
松山～伊予大洲	1,080円	1,200円	1,700円	3,980円
松山～八幡浜	1,430円			4,330円

(図表 8) 3 号車の料金表

区間	運賃	特急料金	グリーン個室料金	運賃料金合計
松山～伊予大洲	1,080円	1,200円	33,600円	2,280円×人数分+33,600円
松山～八幡浜	1,430円			2,630円×人数分+33,600円

(出典) 観光列車「伊予灘ものがたり



(出典) 観光列車「伊予灘ものがたり」

(図表 9)



(出典) sippo 朝日新聞掲載から

おわりに 今後の愛媛県についてのまとめ

地方の取組み、その土地の魅力を伝えるために研究を行ってきた中で、やはり今ある資源を有効活用することが重要だと感じた。真新しさというのも重要ではあるが、それがヒットすることに確証はないわけだ。ならば現在あるものをアレンジすることやスキルの継承によって未来につないでいく。それにより今後受け継がれていく伝統などは色濃く残り、ある時ブームを巻き起こすかも知れない。

愛媛県の観光や地域活性化について探ってきた中で、特に観光列車事業や NIPPONIA の動きを旅行客、観光客に知って欲しい取り組みだ。特に持続可能性という NIPPONIA の動きはその土地ならではの資源を活かした働きかけにより魅力を発信している。大洲城下町は日本最大の分散型 HOTEL として古民家活用に力を入れている。またキャッスルスティは非常にインパクトが有り、値段からして誰でもと言うわけにはいかないものの観光事業に貢献していると言える。

観光列車事業では各観光地や各県で連携が生まれることによって経済波及効果が大きくなり魅力を発信して行くことに繋がっていくのではないかと考える。それら以外についても観光客、旅行客によるクチコミで愛媛県の魅力を伝えてもらい、その行動が連鎖していくことで、より地域活性化の動きを加速させていくのではないだろうか。これには日本人だけ

ではなく外国人観光客による動きは欠かせない。

参考文献

関谷悠 岡村 祐 (2021)「空き家活用の事業展開の視点から見た分散型ホテル事業の特徴」
14号 135-143 ページ

高瀬淳一 (2024)「公務員試験速攻の時事」令和6年度試験完全対応
実務教育出版

藤田知也 (2019) 観光列車の導入による地域経済への効果とその課題 : 観光列車「伊予灘
もの
がたり」を事例に 2号 83-94 ページ

溝尾良隆 (2017)「愛媛の魅力を活かした観光まちづくり」、ECPR Ehime Center for Policy
Research : 調査研究情報誌 1号 47-52 ページ

吉岡走馬、上田将輝、久保静、東岡侑、吉廣、勇佑、渡部、杏奈、米田、誠司 (2015)「まちあ
るきガイドにおける観光価値の創造過程」3号 27-57 ページ

和田寿博 (2017)「観光サービスを担う人材育成とホスピタリティの向上」43号 1-24 ペ
ージ

和田寿博 (2022) 「2021 年度愛媛大学観光サービス人材リカレントプログラムの概要」
2. 3号 45-72 ページ

えぷり Web えひめのあぷり編集部 効果的なインバウンド試作が求められている
<https://ehime-epuri.jp/39589>

愛媛県大洲市における基本計画の概要 - 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/kanko_sangyokakushin/saiseishien/content/001466810.pdf

大洲市 HP より

大洲城天守復元 20 周年記念事業 - 大洲市観光情報 - 大洲市ホームページ
(city.ozu.ehime.jp)

<https://www.city.ozu.ehime.jp/site/kanko/61380.html>

大洲市役所 HP から 大洲市観光まちづくり町家活用エリア実施計画
34104.pdf (city.ozu.ehime.jp)

大洲市役所 HP から 大洲市観光まちづくり町家活用エリア実施計画
34104.pdf (city.ozu.ehime.jp)

観光庁 | 歴史的資源を活用した観光まちづくり

天守を貸し切りに！夢の城主体験「大洲城キャッスルステイ」の魅力 ～歴史・文化・食を堪能できる、日本初の「城泊」とは～ | 観光庁 | 歴史的資源を活用した観光まちづくり (note. jp)

<https://jta-rekimachi-gov.note.jp/n/n3c0215107ea9>

観光庁 | 歴史的資源を活用した観光まちづくり (note. jp)

まち並み消滅危機から起死回生の一手。～「城泊」を中心としたまちづくり、成功の秘訣とは～ |

<https://jta-rekimachi-gov.note.jp/n/n10e5e307a4a9>

株式会社アドバンスネット

日本全国の有名ネコちゃんに会いに行こう！SNS 話題の #猫駅長 #駅猫まとめ～関西・四国編～

<https://www.advance-real.co.jp/blog/stationmastercat-kansai-sikoku/>

経済効果約 11 億円をもたらした「たま駅長」、初代の遺志を継いだ猫たちが駅舎を守り続ける | 週刊女性 PRIME (jprime. jp)

<https://www.jprime.jp/articles/-/24372>

経済効果約 11 億円をもたらした「たま駅長」、初代の遺志を継いだ猫たちが駅舎を守り続ける (2 ページ目) | 週刊女性 PRIME (jprime. jp)

国土交通省 観光庁より 宿泊旅行統計調査

https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shukuhakutokei/content/001345429.pdf

国土交通省 観光庁 宿泊統計調査より

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001725314.pdf>

sippo (朝日新聞の媒体に掲載されたものから)

駅長犬と “福” 駅長猫 2 匹 きまぐれなおもてなしで乗客 …

<https://sippo.asahi.com/article/12874763>

JR 四国 観光列車「伊予灘ものがたり」JR 四国 <https://iyonadamonogatari.com/>

<https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/case...>

JR 四国 「伊予上灘駅」犬の駅長、猫の福駅長任命式の実施について

https://www.jr-shikoku.co.jp/03_news/press/2019_07_12_02.pdf

たま (猫の駅長) - Wikipedia

東洋経済 ONLINE

2 代目に継承、JR 四国「伊予灘ものがたり」の秘訣 乗務員以外に …

<https://toyokeizai.net/articles/-/505178>

日本政府観光局 (JNTO)

歴史的資源を保全・再生し、観光まちづくりに活かす（前編）

<https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/casestudy/3734.html>

NIPPONIA <https://nipponia.or.jp/>

ネコノミクスの分析、たま駅長との出会いから

<https://www.yomiuri.co.jp/life/nyancology/column/20230405-0YT8T50068/>

読売新聞オンライン

猫の経済効果(ネコノミクス)算出の宮本勝浩氏…たま駅長(和歌山電鉄)が発端だった :

読売新聞 (yomiuri.co.jp)